

常新新聞

日刊 發行所 東京 市 本 社 下 同 番 地 (電 話 六 三 〇 番)

定 額 一 部 金 五 十 圓 (一 部 五 十 圓 十 二 月 分 一 部 五 十 圓 一 部 五 十 圓)

定 額 一 部 金 五 十 圓 (一 部 五 十 圓 十 二 月 分 一 部 五 十 圓 一 部 五 十 圓)

定 額 一 部 金 五 十 圓 (一 部 五 十 圓 十 二 月 分 一 部 五 十 圓 一 部 五 十 圓)

歳末御禮大興行入場料十五錢 (割引券御持参方)

◆ 拾六日替り番組 ◆

マキノプロダクションに於ての名篇

市川右太衛門名残の大映畫
玉木悦子、鈴木澄子、武井龍三、小島陽三 助演
前篇八巻後篇一巻全部十八巻上映の大壯舉
帝キネ霧島直子主演

愛のつはもの 八巻
時代劇ノ巨頭松本田三郎主演
演千草香子、市川寛十郎
情炎外道 八巻
太刀に血をぬつてお浪を救つた三十郎やがては誰れに我血をすはるゝや……

近 日 公 映 諸 作

マキノ近來の大衆名篇片岡千恵蔵の名劇作
四 篇 萬花地獄 十三巻
お妻、角太郎のその後の活躍は如何に……
マキノ帝キネ映畫

有聲座

真理の賣出し (2×9)=(3×2×3)
ニダニニダニ
肉は三二三 眞理で御座る
其肉はよく……
此上なし……
是れ又眞理
夫れに尙しかけて
割引賣出し
電話 三三三三

常 警 論 壇

景氣の根柢 (32)

經濟學博士太田正孝氏述

前に一寸申上げた通り此の不景氣の底に於て居る線を上上げるに付ては自分の力に依つてやつて行かなければならぬ點もございませう、即ち自力に依つてやらなければならぬ點もございませうが更に他方に依つてやつて行かなければならぬ立場もあるものであります。どうして景氣を作つて行つたら宜いか又他方としての景氣の根柢と云ふものはどう云ふ状況に置かれて居るかを云ふことをお話上げませう。他

動脈硬化症、腦溢血特效劑

青 山 中 風 西 聖 藥

定價一週分九〇 二週分一、七〇 三週分二、五〇
男女中風症、半身不隨、言語難澁、氣血不順等
他藥にて癒さる人々是非御試用を勸む

代 理 店 **山野邊藥局**

◆ 大衆向のお茶菓子として
「福袋」をお使い下さい!!!

一袋 特價 三十錢
◇ 毎日五十袋限り提供
◇ 賣切れない内お早く

ヤトモツマ

番四一二話電 目丁四

脚氣、淋病、梅毒、神經痛の
(徳島縣、當金屋の家傳の大妙藥)
退痛散 特約店 **大平屋藥店**
半町一丁目 電話六四二番

總て藥劑は服用せずして其効を論ずるを得ず敢て壹週間の服用を奨め以て其實驗的證明を俟つのみ。

賣れ行きが事實を證明する
品質聲價共に拔群の!!

磐城セメント

磐城セメント會社特約店
和洋銅鐵 釜屋商店
釜城小町五丁目 電話九番 一三九番

▽ 良品廉賣は勝る商譽なし
▽ 確實敏捷は釜屋の生命なり

内科、小兒科、花柳科 (需應院入)
平町細屋町
藤沼醫院
電話 五〇七番

力に就ては亞米利加と支那と云ふ國に就て極く簡單にお話上げませう。

亞米利加は昨年棉紗糖小麥煙草などが餘計出來過ぎてそれが不景氣の原因を作つたと申しましたが其の他に聯合金融會社が出來ますと各色々棉の問題などに就ての缺點も除かれたやうであります。殊にさう云ふ缺點は議會の力などを持ちまして除かれると云ふ一方に於て亞米利加と云ふ國は實は金を持ち過ぎて苦んで居る國であります。エツチ、デール、ウエルズと云ふ英吉利に有名な文藝批評家がありませうが、亞米利加と云ふ國は

暴富に苦んで居ると申して居ります。全く其の通りでありませう。先程申し上げました通り世界の金が九十億弗あつたその中の四十七億弗を持つて居る。而も此の國は昨年戰債問題で片付けました戰債と云ふのは戰で貸した貸金であります。是はどの位貸して居つたかと申しますと百十五億弗である歐羅巴戰争に於て貸した金であります。それが大體に於て希臘等を除いて昨年どう云ふ年額で貸すとかどう云ふ利率で返すとか云ふことが決つたのであります。

名 特 入 手 提 價 拭 供

吉田屋 染工場

福島縣平町五丁目 (電話五五八番)
(振替台五三二八番)
徒 弟 入 用 一 十 三 四 歳 位 ノ 者 四 五 名 一

病 院 組 織

▲ 内 科 小 兒 科
院長 醫學博士 難波 太郎
▲ 外 科 皮膚泌尿科
部長 木 村 淳
▲ 産 婦 科
部長 野 秋 善 直
▲ 衛生試驗部 (理化學的検査)
主任 醫學博士 新 井 寛 治
技 術 師 渡 部 桂 太郎
▲ 藥 劑 局
主任 醫學博士 賀 本 孝 平
▲ 共 濟 會 員 診 察 無 料
▲ 病 院 主 事 澤 忠 治
▲ 診 料 無 料
▲ 往 診 料 無 料
▲ 貧 乏 者 一 日 金 貳 圓 八 拾 錢 也 賄 付
▲ 看 護 婦 募 集 中

△ 往 診 料 無 料
△ 貧 乏 者 一 日 金 貳 圓 參 拾 錢 也 賄 付
△ 看 護 婦 募 集 中

△ 往 診 料 無 料
△ 貧 乏 者 一 日 金 貳 圓 參 拾 錢 也 賄 付
△ 看 護 婦 募 集 中

△ 往 診 料 無 料
△ 貧 乏 者 一 日 金 貳 圓 參 拾 錢 也 賄 付
△ 看 護 婦 募 集 中

△ 往 診 料 無 料
△ 貧 乏 者 一 日 金 貳 圓 參 拾 錢 也 賄 付
△ 看 護 婦 募 集 中



師走氣分を喰る

出入貨物の動態

平常に比し四割の増加
來春活躍の前景

平驛に於ける貨物の集散状態は昨今漸く年末氣分を示して發着共に前月中の噸數に比し何れも四割方の増嵩を見尙逐日幅轆を極め行きつゝある

誘發の兆を見せて來が之れは殊に明年は諒闇あけともなり新年用の各商品が一般に用意された結果でもあらうが更に今一步財界を好轉させんとしつゝあるは東京市に於ける休業銀行の整理案も漸く決定しそれぞれ

最終の町會

廿日頃に開く

平町では來る二十日頃に本年掉尾の町會を開き本年度豫算更正及區長改選小學校増築問題に關し豫て委員により調査を進められてゐた報告事項等を附議する

閉置放鳩

三週間に

訓練せられた鳩舎鳩を約二百キロの地點に二三週間に閉置したる後通信に使用し以つて鳩舎鳩主要通信距離に於ける閉置能力を調査する

相當の

活躍を演ずるに至るであらうと觀測されてゐる

櫛出氏の

青關騎乘祝賀

石城産馬畜産組合主催櫛出彦之進氏祝賀會は十七日午前十時から遠野小學校で開催記念品を贈呈するが植

の諸氏來平之に立會ふ事になつてゐる

狩獵法違反

平町縣匠町無職小山雅一(三)は去る十四日午後一時半頃同町字八幡小路鐵道員小田勇(七)の獵銃を借り受け四軒町の山林で鳩一羽を捕獲し狩獵法違反として平署柴崎刑事に檢舉さる

成吉思汗は

源義經なりの著者

小谷部博士の講演
平町教育會は十七日午後一時より元郡會議室に於て『成吉思汗は源義經なり』の著者文學博士小谷部全一郎氏の講演會を催す由

惣善寺の

珍木を盗み

己れの庭よ

石城郡湯本町大字湯本字傾城入山第四坑運轉夫若手縣生れ窃盜前科二犯鈴木孫次郎(四)は數年前から炭礦を流れ歩き大正十四年六月湯本町惣善寺から數十年を経た珍木高砂阜一本(代金



家庭欄

逃げ場を失ひ

老婆が焼死

泉村の火事
石城郡泉村大字黒須野農高

じ込んで、箸でかきませながら煎り上げます。別に海苔を焼いて、今の煎卵をその上に一分厚みに擴げ、紅生姜のやうに巻き、三四分の厚みに小口から切ります。丁度お壽じのやうに綺麗でたののり卵より食べやすく子供等にも喜ばれます。但し卵の熱い中に巻かない

四倉如來寺が

牡丹園開設

將來は開放
石城郡四倉町如來寺住職小松學俊師は同寺境内に兵庫縣山本驛前坂本牡丹園より牡丹苗八百株を移植し更らに移植の數を増す計畫であるが將來は開放して一般の觀覽を乞ふ事になると

耳の兔

野恒與方から十四日午前一時頃發火同家を焼失したのみで鎮火したが同居人高野かね(七)は逃げ場を失ひ無残の焼死を遂げた原因は煙草の吹殻かららしいが植田署で調査中

文藝投稿家へ

投稿が大分集つて居ります其内の佳作は新年の初刷りに掲載する豫定です、尙ほ紙上への發表は匿名であつたとしても住所氏名は明らかにして置いて下さい

文藝投稿家へ

牛を飼養してゐるが搾乳のため純粹種牛の種付を受け親牛に劣らぬ牝牛を得たいと只管分娩の期を待つてゐたところ今度産氣づいたので獸醫まで招きお産をさせ

文藝投稿家へ

牛の赤チャンは牝牡二ツの頭を備へた畸形兒なので新太郎はがつかりしたがこれを聞いた香具師は高値に買はうと交渉中

盗んだ上に

詐欺も働く

豊間生れの男
石城郡豊間村生れ當時茨城縣久慈町南町田所音松方雇人四字新太郎(三)は大正十五年中華間村遠藤宗三郎方から十圓を窃取し尙去月中久慈町料理店藤見亭に忍び入り長靴(十二圓和當)を窃取した外文書を偽造して八十圓餘を詐取した事を茨城縣太田署に探知され取調中の處十四日書類のみ送檢さ

平町人事

- △出生
 - △月見町二三 國井源喜知氏二女里
 - △新川町二五 樋口小彌太氏長女モト
 - △材木町二 金澤政次郎氏三男政勝
 - △仲間町五二 中根孝之次氏二女和子
- △死亡
 - △才井小路二二 野澤吉次郎(五七)
 - △立町一二 渡邊幸次(二二)
 - △胡麻澤二二 廣瀬ト(二〇)
 - △才井小路一 堀江英長(四)

けふ米増収褒賞授與

平町外七ヶ町村聯合にて

入賞米の種類

既報平町外七ヶ町村農會聯合稻増収品評會褒賞授與式は本日午後一時より元郡會議室に舉行、同會長山崎與三郎氏の開辭に次いで大山技師の審査報告あり郡農會長安島重三郎氏左記受賞者に褒賞を授與し山崎會長の訓示、伏見町長其他來賓の祝辭、受賞者總代の答辭あつたが入賞米の種類は銀坊

學報を發行

御即位記念に

平町私立佑賢學舎では大正十一年中創立十周年記念として校舎を新築し本年度は恰も十有五年に相當するも時節柄謹慎の意を表し記念